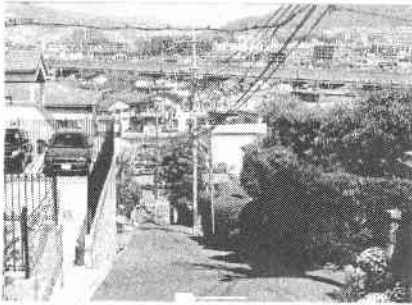


待兼山、南山山麓部の散策

早く開けた待兼山山麓住宅



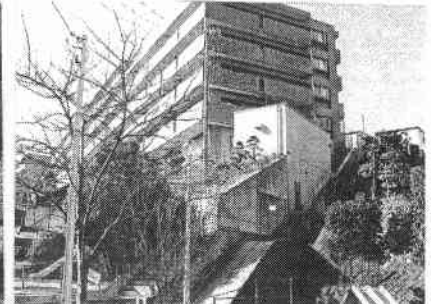
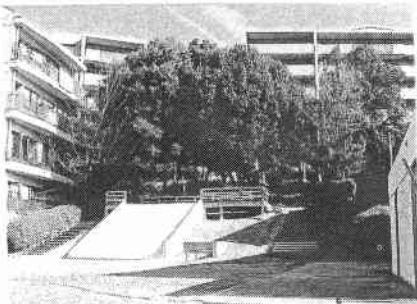
昭和 40 年代初期に、石橋駅に近くて便利な為、待兼山北部山麓の住宅は建設が行われた。当時は大型建設機械も無く、地形をその儘生かして、階段状に住宅が建てられた。道は急坂であり往時の地形が忍ばれ、最近の大規模住宅地との違いを感じさせられます。

坂を上り詰めると、池田や川西方向の眺望が楽しめます。この南山では、昭和 26 年ごろまで、松茸を採っていたそうだ。なを国道 171 号の北側は、阪急線まで、田圃が広がり西南小、第三中も在りませんでした。



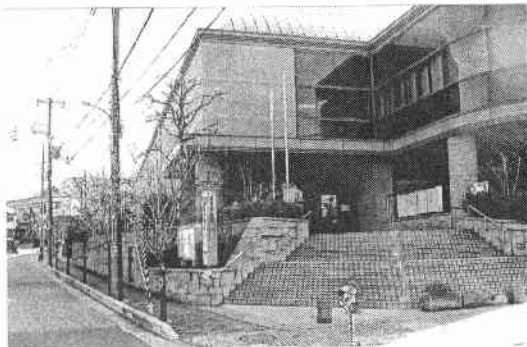
小さな尾根を越え南へ進むと、待兼山の面影を残す阪大のキャンパスに突き当たります。反転して一旦国道へ出て再び坂を上ると、傾斜のある瀬川西公園が左手に在ります。当時の地形がそのままです。その先の 2 棟の巨大なマンションも西側からの眺めと、東側から見るのとは、印象が全く異なります。これも地形のせいでしょう。

瀬川 4 丁目の丘陵部を越えると、西南図書館です。手前に瀬川・半町の共有墓地があり、横断した瀬川新稲線は墓道と呼んでいた。



工場跡地に建つ西南図書館、聖苑

池田のダイハツ工業の生産が盛んになり、箕面市にも関連企業が沢山工場を建設した。半町 4 丁目では、池を埋めて笠松金属工業、浦野製作所が操業していた。しかし、ダイハツの主力工場が移転すると、これらも移転し跡地に西南図書館、聖苑が建設された。



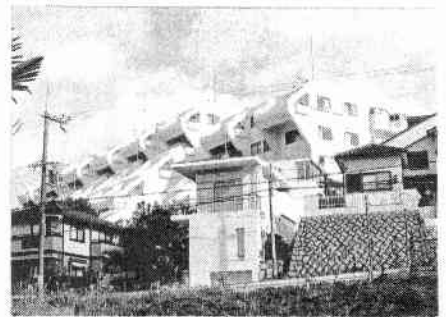
南山山麓の住宅街

西南図書館より、少し山手へ進むと、豊中市との境の尾根道から、桜井駅に通じる旧い道に出ます。南山の山麓に沿った街は、右手が急傾斜地で、階段状に住宅が連なっています。下り坂から箕面駅方向の展望が開けます。やがて半町南公園に到達します。付近の開発が進み南山のを忍ぶ、貴重な森を残す緑に包まれた公園です。

複雑な道を選べ、マンションの敷地を経ると、箕面自由学園の通学路を横断する。この学園は箕面北小の位置に設立され、戦後いろいろな経過を経てこの地に移転したものです。

桜井 3丁目は比較的平坦地に住宅が並んでいますが、開発当初、計画的な造成が行われず、道路が複雑で、うっかりすると迷路の様に出れなくなります。豊中市境との間は急傾斜地で、階段状のマンションが建っています。

街歩き終盤、墓地の脇に6体の地蔵が祀られており、これを過ぎると箕面街道に合流します。街道は大阪より、南山を越えて龍安寺への参拝道で、旧くからの歴史ある道です。牧落西交差点で国道へ出ると終点です。



ウォッチングコース

歩行距離 約 3.4キロ

阪急石橋駅東口 → 瀬川 5丁目住宅街 → コムシティ
 → 瀬川 4丁目住宅街 → 西南図書館 → 半町 4丁目住宅街
 → 半町南公園 → 桜井 3丁目住宅街 → 地蔵さん群 →
 国道牧落西交差点

